

<平成28年度事業報告書>

【概況】

本年度は、各本部ともに当初定めた事業計画を着実に実施することが出来た。一方、継続的課題として掲げる、財務体質の改善、魅力あるレースの開催、レースの安全対策等については、各本部の意識の中に十分備わってきたものと思われる。

財務体質の改善については、昨年同様、計画の範疇で推移するようになった。しかしながら、次を見据えた場合、今後更に協会に求められる様々なミッションを行うには、まだまだ資金不足であると思料する。

魅力あるレースの開催に向けては、2,000mレース（東日本選手権）と1,000mレース（東日本夏季競漕大会）を併行して実施することにより、それぞれの距離に対して底堅いニーズがあると実感することができた。

将来を担う小中学生の支援、ボート人口拡大に向けた普及活動についても、予定通り実施することができ、ボート競技の裾野拡大に寄与したものと考えられる。

以上のように、各本部ともに事業実施については安定感が出てきたので、来年度以降、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、あらたな事業の取り組みや外部団体からの協力要請を求められる中、それらに対応できる体制が整いつつあると手ごたえを得ることができた。

各本部の事業報告は以下の通りである。

1. 競技開催事業

別表1の通り競技会を開催した。

2. 普及事業

- 今年も谷古茂盾争奪マスターズレガッタ、小学生交流レガッタを開催し、老若男女がレースに臨みボートを楽しんだ。小学生レガッタには14クルーのエントリーがあり、熱戦が繰り広げられたと同時に戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。

詳細は別表2の通りである。

- ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として従来より多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田の都内5拠点を中心にボート教室、マシンローイングイベント等を展開してきた。

詳細は別表3の通りである。

- またボート教室等の施設充実を目的として、各関係機関に働きかけた結果、多摩川ボート教室の艇置き場の充実とその使用料が無料になり、艇の出し入れが今までより楽になる階段護岸が完成した。
- 今年度も中学生が全国中学生選手権競漕大会をはじめ、全国三大会にて、大いに活躍した。その他、小中学生、各ボート教室会員が各水域のローカルレガッタに積極的に参加し、活躍がみられた。

3. 強化事業

- 東京都代表クルーのブロック大会、国体結果は、別表4、5の通りであった。
- 当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表6の通りであった。
- 岩手国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。

- ・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。
- ・トップアスリート事業6期を無事終了し、6名がボート競技を選び、現在進学先の高校で部活動およびクラブチームで活動している。
- ・トップアスリート8期生については専門プログラムを実施。(平成28年12月終了)

4. 事業報告の付属明細書

平成28年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。